

乾癬について

日本海員掖済会長崎病院

皮膚科医員 陳 文 雅

【乾癬とはどんな病気？】

乾癬は、皮疹を伴う慢性的な皮膚の病気であり、その多くが思春期以降あるいは中年以降に発症します。症状としては、皮膚に少し盛り上がった(肥厚)赤い発疹(紅斑)が出て、表面に白いかさかさしたかさぶたや銀白色のふけ(鱗屑)のようなものを伴い、ポロポロとはがれ落ちる(落屑)病気です。かゆみを伴うこともあります。その程度はさまざまです。

患者さんの数は、欧米では人口の2~3%を占めています。日本においても、近年増加しており500~1000人に一人の割合で発症し、現在約10万~20万人の乾癬の患者さんがいます。日本に於ける男女比は、2:1で男性に多く見られます。

皮疹は、頭部、肘、膝、腰などこする刺激を受けやすい場所によくできます。ひどくなると体中に広がることもあります。特殊なタイプを除いて全身症状はありません。爪の変形や白濁、関節炎(関節の痛み、腫れ)を伴うこともあります。

人にうつることは絶対にありませんが、人目を気にし、温泉に行けないなど患者さんにとっては、大きなストレスとなり得ます。

【乾癬の種類】

乾癬は、症状により5つの種類に分けられます。

1. 尋常性乾癬:乾癬患者さんのほとんど

どの約90%を占めるため、一般的に乾癬といえば、この尋常性乾癬を指します。症状としては、こすれやすい頭部、肘、膝や刺激を受けやすい部分に紅斑、鱗屑、落屑ができます。

2. 滴状乾癬:若い患者さんに多く、小さい水滴程度の大きさの皮疹が全身に出現します。乾癬の約3%を占めており、溶連菌感染(扁桃腺炎、歯、鼻)などがきっかけで急に発症します。尋常性乾癬に移行する場合もあります。

3. 乾癬性紅皮症:尋常性乾癬が全身に広がり、皮膚全体の80%が赤くなった状態(紅皮症)をいいます。乾癬の約1%を占めます。

4. 汎発性膿疱性乾癬:厚生労働省指定難病の一つで、非常にまれな病気です。悪寒や発熱などの全身症状を伴って、急激に発症し、全身に赤くみずみずしい皮疹の上に小さな膿をもったぶつぶつがたくさんできます。尋常性乾癬の経過中に発症することもあるが、乾癬の症状がないのに突然生じることもあります。全身倦怠感、食欲不振、むくみなどが見られ、しばしば粘膜症状や関節症状を時には、眼症状、2次性のアミロイドーシス(アミロイドーシスとは線維性の異常なタンパクが全身の臓器に沈着し臓器に

さまざまな機能障害を起こす病気で、2次性アミロイドーシスは関節リウマチなどの慢性炎症疾患や慢性感染症などに続発して発病する病気のこと)を合併し、生命を脅かすこともあります。医師の診断書とともに決められた手続きをすれば、医療費が軽減されます。厚生労働省によると2007年の時点では、約1,500人の患者さんが申請をされています。女性に多く(男:女=1:1.2)、小児期と30歳代に発病することが多いとのこと

かんせつしょうせいかんせん

5. 関節症性乾癬:乾癬全体の3~5%を占めています。皮膚の症状に加え、関節が腫れたり、痛んだり、変形を起こすこともあります。乾癬の患者さん全員に必ず発症するわけではありませんが、多くの場合、乾癬の皮疹が出た後に関節の症状が現れます。

【皮膚の機能】

ヒトの身体全体を覆う皮膚は、外界と直接接触するため、細菌やウイルスの侵入を防ぐ免疫機能をもっています。健康な皮膚は常に新しい細胞が作られ、「ターンオーバー」を繰り返しています。ターンオーバーとは、表皮細胞が生まれてから死んではいがれ落ちるまでのサイクルを言います。表皮細胞が基底層で新しく生まれて、約28日かけて角質細胞となり、垢となりはがれ落ちます。乾癬の患者さんの場合、表皮細胞の異常な増殖によりターンオーバーのサイクルが4~5日と極端に短くなっているため、積み重なった角質がフケのようにポロポロとはがれてしまいます。

【乾癬の原因】

乾癬の原因は、まだ完全には分かっています。

せんが、外的因子(ストレス、食生活、薬剤など)、内的因子(糖尿病、高脂血症、肥満など)が考えられており、最近の研究では、表皮細胞の異常な増殖と免疫の異常が炎症を引き起こし、乾癬を発症する要因の一つであることが、明らかになってきました。

免疫系は、私たちの体内で、外からのウイルスや細菌などを攻撃し、これらの異物が体内に侵入するのを防ぐ大事な防御システムですが、何らかの原因でこの免疫系が異常を起こすと、異物ではなく自分自身を攻撃し、炎症をひきおこしてしまいます。乾癬の発症に影響する生体内の物質として、腫瘍壊死因子(TNF- α)というタンパク質やTh17とよばれるリンパ球があり、これらの因子を抑えることで、乾癬の治療効果が期待されます。

【乾癬は人にうつるか】

乾癬は、周りの人にうつることはありません。温泉やプールでも人から人へうつる心配はありません。

【乾癬は遺伝するか】

乾癬になりやすい体質は遺伝することもあるとされていますが、必ずしも発症するとは限りません。親子で発症した割合は日本では約5%といわれています。欧米では20~40%ですが、人種の違いや生活環境の違いが考えられます。発症には、ストレスや肥満などが関わっていると考えられていますので、注意しましょう。

【乾癬は治るか】

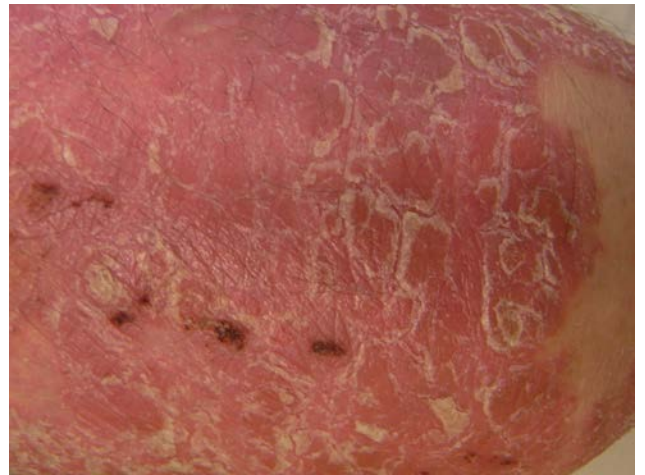
乾癬は、基本的には良くなったり、悪くなったりを繰り返す慢性疾患です。高血圧や糖尿病などのように、日常生活や体調を整えながら、必要に応じた治療で皮疹がほとんどない状態

までコントロールできる病気です。

また、乾癬が自然消失する患者さんもいます。

【乾癬の治療】

1. 外用療法(塗り薬):まず外用から治療を開始します。ステロイド外用薬、ビタミン D3 外用薬があります。
2. 光線療法:PUVA(紫外線に反応しやすい薬を内服しあるいは塗った後、またはお湯に溶かして入浴後、UVA という紫外線を照射する方法)、UVA より波長の短い UVB や特定の波長のナローバンド UVB という紫外線を照射する方法があります。
3. 内服療法(飲み薬):シクロスポリン、ビタミン A 誘導体などがあります。
4. 生物学的製剤(点滴または注射):2010 年から使用できるようになった新しい治療法です。これまでの治療で効果がみられない患者さんなどを中心に行われています。効果がある患者さんは、外用しなくても良いぐらいに皮疹が消退することもあります。



銀白色の鱗屑を付す紅斑が特徴です



膝など刺激を受けやすい部位に好発します